

令和7年第9回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和7年9月24日(水)
午後3時00分～午後4時00分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室
3. 出席した委員
教育長 新子 寿一
教育長職務代理 田中 保和
教育委員 西村 弥生子
教育委員 太田 貴之
教育委員 田辺 恵美
4. 出席した職員
教育部長 桐藤 英樹
教育監 安田 典子
福祉子ども部長 森口 秀樹
福祉子ども部次長 石橋 智成
教育総務課長 稲山 佳史
指導課 小室 吉昭
事務局教育総務課 塩谷 行由
5. 議事案件
議案第19号 柏原市教育委員会表彰審査委員会委員の委嘱・任命について
議案第20号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について
6. 報告事項

7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長：皆さまお揃いでございますので、令和7年第9回定例教育委員会会議を開会します。本日の会議録署名委員は、西村委員にお願いいたします。次に、事前に送付させていただいております会議録につきまして、ご意見等ございませんか。

委員全員：なし。

新子教育長：それでは、会議録は承認することにいたします。本日の議事に入ってまいります。本日の議事案件は2件です。どうぞよろしくをお願いいたします。議案第19号につきまして、教育総務課稲山次長より説明をお願いします。

稲山次長：議案第19号柏原市教育委員会表彰審査委員会委員の委嘱・任命についてご説明いたします。柏原市教育委員会表彰審査委員会規則第2条第2項の規定により、委員を選任するものでございます。次のページをお開きください。令和7年度は、次の方々をお願いしたいと考えております。委嘱期間は、委員会の日から令和7年11月3日までとなっております。ご審議の程よろしくをお願いいたします。

新子教育長：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

委員全員：なし。

新子教育長：ないようでございますので、議案第19号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第19号柏原市教育委員会表彰審査委員会委員の委嘱・任命については、原案どおり承認することにいたします。次に、議案第20号につきまして、指導課小室課長より説明をお願いします。

小室課長：議案第20号令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容について、指導課よりご説明申し上げます。まず資料についてですが、昨年よりA4横の「結果概要」とこれまでのように詳細を記した冊子を「結果に関する参考資料」として作成しました。市民に向けて公開することを前提に考えた場合、よりシンプルでわかりやすいものをとの意図で作成しております。なお、「結果に関する参考資料」は、概要版の下に記したQRコードやリンクから見られるようにいたします。

それでは、まず概要版を使って説明いたします。調査目的及び調査対象学年はこれまでと変わりはありません。教科については、今年度理科が実施され、中学校はインターネットを使つての回答になるCBT方式で実施されました。

それでは、参考資料のほうで説明いたします。各教科の平均正答率といたしましては、小学校は全国、大阪府と比較し、国語は、算数は上回りました。理科は、大阪府を上回ったものの、全国平均より下回りました。中学校は、国語のみ大阪府を上回っているものの、全国と比較した場合、国語、数学、理科とも下回っております。数学に関しては、大きく差が出ております。理科については、484と数値が大きく、指標が違うことがわかります。こちらは、IRTスコアと呼ばれているもので、これまでは、回答数の数のみ、例えば、10問中7問正解のように数で比較していたものが、問題の難易度も加味するようになっております。単純な数の比較ではなく、どの問題が正解するかで数値

が変わるようになります。今後は、指標を使うことになると文科省より聞いております。

平均正答率の推移をみますと、小学校では、令和5年から改善傾向がみられ、中学校は乱高下しております。一番下、同一集団・生徒集団による経年比較でみると、現中3の小6当時と比較すると、数値で見ると大きく下がっています。こちらの表で見ると、小学校は改善傾向をたどっています。

参考資料2、3ページをご覧ください。小学校の問題別調査結果になります。今回は、強みとして正答率の高い問題を算数より2題、課題と考えられる無回答率が高い問題を国語よりあげています。ただこちらも、大阪、全国に比べてではなく単純に他の問題に比べて無回答率が高い問題としてあげています。4ページは、中学校の問題別調査結果になります。数学においては、どの領域においても全国を下回っています。課題の見られる問題については、5ページ右下になります。正答率が2割弱となっていますが、最も多い誤答として1を含んでいる回答が6割近くあったという結果になっています。

参考資料6ページについても、全国と比較して正答率が低かった問題、数学になります。

7ページは、児童・生徒質問紙調査の結果の概要になります。小学校では、生活習慣、自己有用感はある一方、引き続き学習習慣には課題が見られます。ICTを活用した学習状況は改善傾向にありますが、活用頻度に関しては、課題が残ります。中学校では、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は進んでおり、理科の授業では、府では大きな課題となっている観察実験をよくできているという結果になっております。ただ、ICTの活用頻度に関しては、課題は継続して大きく、今回端末を入れ替え、環境を改善したことで、どのように変わるか注視していく必要があります。

8、9ページは回答状況一覧になります。左が、質問内容になります。右端は、全国との比較、肯定的回答の割合、前回の結果との比較になります。表の見方ですが、全国との比較では、+10ポイントが◎、+5ポイントが○、-5ポイントが▽、-10ポイントが▼になりますので、質問番号4は小中ともに5ポイント下回っているという結果になります。また、肯定的回答については、90%以上を◎、80%以上を○、50%未満を▽、20%未満を▼になりますので、質問6は小中ともに90%以上の肯定的回答という結果になります。

緑色に着色された質問については、国立教育政策研究所より「質問紙の肯定的回答と平均正答率に強い相関関係が見られる」と指摘されている質問項目になります。

10ページは、特徴的な項目として、教科の平均正答率との相関関係が指摘されている項目について、つまり先ほど緑で塗りつぶした部分で、課題が見られた問題について取り上げております。

一番下、ICTを活用した学習状況については、今年度も大阪府、全国と比較して、授業での活用頻度が少ないという結果となりました。

11、12ページは、今年度新たに加えた資料になります。小さくて見づらい部分もありますが、グラフの上に行くほど新しい結果となります。肯定的回答で見えていくと、47以外は継続的に改善しているものが増えてきています。また、裏面、中学校について

ても19以外は継続的に改善しているものが多くなっています。中学校では、数値的にみると、乱高下していますが、多くの項目で継続的に改善傾向がみられることは、学校での取り組みの成果であると考えられます。

教育委員会としましては、結果からわかることを、学力向上推進委員会等を通して学校に周知し、引き続き学力向上の取組みを進めてまいります。報告は以上でございます。

ご審議の程よろしくお願いいたします。

新子教育長：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

太田委員：小学校の学力が上がっていることについては、どのように分析しておられますか。

小室課長：授業改善が進んでいる学校が多いと認識しています。中学校がしていないという訳ではありませんが、小学校の研究体制が充実しているという認識です。

太田委員：中学校では学校差があると思いますが、結果の値が高い学校について、どのような分析をされていますか。

小室課長：結果が右肩上がりになっている学校では、教科担当の先生の名前が一致していることが多いです。学力向上推進委員会でもその先生の指導実践を見に行くように働きかけを行っています。

太田委員：アンケートの結果でSNSの利用時間が多く、家庭学習時間が短いというのが柏原の弱いところですが、やはり量を勉強しないと学力は上がらないので、そこはどうしようもない部分もあると思いますが、今のお話ですと、教員の授業力を高めたら学力は上がると。ということは、研修や授業研究などを行う必要があり、研究体制の充実している小学校では学力が上がるという認識を持っているということですね。

小室課長：そうです。ここ数年では、学力を上げるということは授業改善を行うこととイコールだと認識しています。

太田委員：そうすると、府下で教員の配置が一律であることを考えると、柏原の中学校の結果が府下平均より低いのは授業改善が進んでいないということになりますかね。

小室課長：その見方もできると思いますが、平均値だけで見えてはいけないと学力向上推進委員会でも言われているところです。状況は学校によって全然違いまして、大きく上がっている学校もあれば、平均値を下回りつつも少しずつ上がっている学校や、今まで平均より高かった学校が一気に下がってしまっているところもあります。一概に理由づけは難しいところでして、学校別に分析が必要かと考えております。

太田委員：分かりました。もう1点質問ですが、大阪市等では塾代の補助を行っているのもあり、塾に通う子も増えていると思いますが、柏原市の入塾率が府と比べてどうなのかといったデータはありますか。

小室課長：それは教育委員会や学校から調査を行う根拠がないので難しいですね。

太田委員：柏原市の家庭学習の低さは入塾率の低さと関連があるのかと最近思い始めまして、少し気になりました。今後、何か分かることがあれば教えてください。

新子教育長：ありがとうございます。他にご質問等ございますでしょうか。

西村委員：中学校の勉強スタイルは課題やっつけが主体なので、本当の理解に繋がるよう

な学習に時間を割けるよう、主体的なスタイルを確立できるといいと思いますね。

小室課長：自主的・主体的な授業を行うよう国からは言われているところですが、主体的に学習するということは基礎力があって初めてできるものであると考えています。先生方の中でも「主体的に」という言葉だけが先行してしまっている感じもあります。それを先生方の授業に落とし込むためにはやはり授業改善が必要かなと考えています。

新子教育長：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

委員全員：なし。

新子教育長：ないようでございますので、議案第20号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

新子教育長：それでは、議案第20号令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の公表内容については、原案どおり承認することにいたします。本日の議事案件は以上です。

(こども施設課より認定こども園・幼稚園の内定状況について、教育総務課より就学指定校の変更制度の見直しについての経過をそれぞれ報告)

以上で第9回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員